

笑顔の“たね”をつくりたい

おうみ子ども・若者未来のタネプロジェクト(タネプロ)
学校に行きづらい親子を応援する まちのほけんしつ活動



まるでサークルのように和やかにワークショップを行うスタッフの皆さん



伊藤 哲郎さん
(総合医療・家庭医療専門医)



伊藤 つかさん
(社会福祉士・スクールソーシャルワーカー)



クレイ 小林さん
(保健師・スクールソーシャルワーカー)



菅原 裕子さん
(キャリアコンサルタント)



大原 優子さん
(不登校親の会Cocoma代表)



亀田 隼太さん(医大生)

学校に行きづらい子どもと保護者の支援をしようと、もりやまエコパーク交流拠点施設で「まちのほけんしつ」を実施している「おうみ子ども・若者未来のタネプロジェクト」の皆さん取材しました。

ほわっと安心してほしい
「まちのほけんしつ」オープン

令和7年5月、もりやまエコパーク交流拠点施設で「まちのほけんしつ」がオープンしました。この月に一回程度、不定期。「そら」には、市民団体「おうみ子ども・若者未来のタネプロジェクト」代表の伊藤 つかさん(社会福祉士、スクールソーシャルワーカー)をはじめ、医師などのスタッフが参加します。

ほけんしつの目的は、学校に行きづらい子どもと保護者のヒーリング。予約も何もいらないので親子が来るには限りませんが、来てくれた人には、何となく楽しかったり、ほわっと安心したり、人となりが癒やされる時間を過ごして、笑顔になってほしいと考えています。

団体設立の目的を達成
次の支援活動を実践

伊藤さんが学校に行きづらい親子の支援を始めたのは、わが子が不登校になった経験があった



訪れた子どもたちがクッキングのお手伝い



この日のランチメニュー
ミートソースパスタ、スイートポテト、スープ

立当初の目的を達成しましたが、学校に行きづらい親子の支援はまだまだ必要です。そこで「そら」をオープンすることにしました。

スタッフも親子も笑顔に
ほっこり過ごす自由時間

「そら」では、伊藤さんたちスタッフも、訪れた親子も、おしゃべりやクッキング、きもちのワークショップ*などを通して楽しく多世代とふれあい、専門家や親同士の交流をしながら自由に過ごします。笑顔が増えれば、それだけで気持ちがほぐれます。

取材にお邪魔した日は、2人の子どもが参加して、ランチのミートソースのパスタとスイー

トポテトを作るお手伝いをしていました。スタッフと一緒に料理やおしゃべりを楽しんだり、パーク内に遊びに行ったりして過ごしていました。その間に保護者は、スタッフに心と体の健康相談をしていました。

たくさんの人と想い
つなげる止まり木の場所に

「そら」は学校に行きづらい子と親の支援事業ですが、誰でも参加できる、開かれた場所です。家庭医や保健師のスタッフに気軽に健康相談もできます。まだまだ訪れる参加者の広がりは少ないですが、「子どもたちが子ども時代を、元気にその子らしく過ごせることが何より大切」というタネプロの活動や考

え方に賛同する大学生などが、ゲストスタッフとして参加することもあります。

伊藤さんは「タネプロの仲間もそうですが、活動を続ける中で、同じ経験をした保護者や支援活動をする人など、たくさんの人や想いにつながりました。

「そら」はそういう支援を求める人も支援の想いがある人も互いにゆったりできる、止まり木のような場所でありたいと考えています。だから、私たちスタッフにとっても、学びの多い楽しい時間なのです。この場所から、その人の幸せにつながるいろいろな活動につながっていきたい。ジムやプールの帰りに、気軽に声をかけていただけたらうれしいです。」と話していました。次回の「そら」は2月17日(火)の予定です。

サポートブックの発行で 「おうみ社会貢献表彰」を受賞

滋賀県すべての、学校に行きづらい子どもと保護者にサポート情報を届けよう活動してきた「おうみ子ども・若者未来のタネプロジェクト」は、湖南エリア版を発行して県内全域を網羅し、県「おうみ社会貢献表彰」を受賞しました。

伊藤さんは、市長を訪問して受賞を報告し、学校に行きづらい親子の現状や支援について話しました。

